

まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構専務 原田雄一郎



3月3日から、タイ

・バンコクでワシントン

条約会議(CITES

S COP16)が開催

される。加盟国は17

6カ国。少なくとも1

50カ国以上の参加が

予想される地球規模の

大国際会議だ。前回、

2010年ドーハで開

催された会議(COP

15)は、大西洋クロマ

グロを絶滅危惧種に指

定する提案をめぐって

紛糾し、国際社会に大

きな波紋を投げかけ

た。



◆持続的利用拒む

CITES◆

「国際取引の規制

不当に海産種の持続的

利用を阻む事態をもた

らすものだと批判する

声も多い。

CITESがやぶる

秘密投票、現行制度を維持せよ

◆小国の立場守る

秘密投票◆

COP15で欧州連合

が主導したクロ

マグロ提案は、会議に

弱く、公開投票で圧力

数、または3分の1以

上の支持を秘密投票実

持されなければならな

い。

している。10年のCO

P15で、仮に、国際取

引が禁止され、その結

果、漁業が全面中止と

なっていた場合、資源

回復のデータも得られ

ず、半永久的にクロマ

グロの利用が途絶する

事態となり、結局、漁

業および関連産業も壊

滅せざるを得ないこと

となつたはずで、今ま

らながら、そうとする。

なければ、提案の否決

この秘密投票制度が

の提案に対し、10カ国

計を立てている人々の

痛みを知らない者たち

の圧力によって、CI

TESが誤った決定を

する事態を防止するた

めに、現在の制度は維

持されなければならな

意図の明白な係る提案

が提出されるのは、不

合理的な提案に対抗する

現在の秘密投票制度の

有効性をそのまま示す

ものとも言えよう。

◆誤った決定を防止◆

もし、係る修正案が

採択されることとな

れば、秘密投票の利用

が実質的に不可能とな

るのは必定だ。そうな

れば、今後のCITES

Sにおいて、科学的な

根拠の乏しい不合理な

提案があった場合、こ

れを阻止するのは、著

しく難しくなるだろ

う。

◆秘密投票の実施

拒むEU提案◆

現在の制度(1カ国

生物の利用によって生

水産資源も含む野生

生物の利用によって生

計を立てている人々の

痛みを知らない者たち

の圧力によって、CI

TESが誤った決定を

する事態を防止するた

めに、現在の制度は維

持されなければならな

い。

(毎月1回掲載)